

令和5年度 第2四半期

---

退職等年金給付組合積立金 運用状況



## 目次

- ・ 令和5年度 第2四半期運用実績（概要） . . . . . P 2
- ・ 令和5年度 第2四半期市場環境（その1） . . . . . P 3
- ・ 令和5年度 第2四半期市場環境（その2） . . . . . P 4
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 . . . . . P 5
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り . . . . . P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り . . . . . P 7
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 . . . . . P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 . . . . . P 9
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 . . . . . P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 . . . . . P 11

## 令和5年度 第2四半期運用実績（概要）

運用収益額 + 1.03億円 ※実現収益額  
(第2四半期)

運用利回り + 0.11% ※実現収益率  
(第2四半期)

運用資産残高 972億円  
(第2四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## 令和5年度 第2四半期市場環境（その1）

## 【各市場の動き（令和5年7月～令和5年9月）】

- 国内債券：10年国債利回りは上昇しました。日本銀行が、7月下旬の金融政策決定会合で、YCC（イールドカーブ・コントロール）政策の運用柔軟化を決定し、指値オペの利回りを0.5%から1.0%に切り上げたことから上昇（債券価格は低下）しました。また、期末にかけては、米国長期金利に連れる格好で一段と上昇しました。
- 国内株式：国内株式は上昇しました。インバウンド需要拡大期待等から、内需・割安株を中心に外国株式に比べ相対的に堅調に推移し、9月前半には日本を代表する大型株が相次いで上場来高値を更新する局面もありましたが、期末にかけては、世界的な株安の流れを受けて下落に転じました。
- 外国債券：米国10年国債利回りは上昇しました。米経済の景気後退入り懸念による早期利下げ期待が広がる一方で、雇用を中心に景気は底堅く推移したことでFRB（米連邦準備理事会）が引き締め長期化を示唆したことに加え、予算協議の難航への警戒感も重なり大幅に上昇しました。ドイツ10年国債利回りは上昇しました。欧州景気の低迷が懸念されていたにもかかわらず、ECB（欧州中央銀行）が7・9月と連続の利上げを行ったことに加えて、米国長期金利に追従する格好で上昇しました。
- 外国株式：米国株式は下落しました。長期金利の上昇により、ここまで相場上昇を牽引してきたITハイテク銘柄の上値が抑えられる結果となったことから、NYダウは34,000ドルを割り込み、4ヶ月ぶりの安値となりました。欧州株式は下落しました。ECBの利上げ打ち止め観測を背景に持ち直す局面も見られましたが、域内景気の悪化傾向や中国における不動産債務問題への懸念の高まり等から株価は下落しました。
- 外国為替：ドル/円はドル高・円安で推移しました。期初、米CPI（消費者物価指数）の鈍化傾向から、一時ドル高修正に振れましたが、米景気の底堅さを背景としたFRBの引き締め長期化姿勢からドルが買われる様相を強め、昨年10月以来の円安水準を更新しました。ユーロ/円は概ね横ばい圏で推移しました。欧州の利上げが最終局面入りとの見通しが広がったことから、一進一退の動きに留まりました。

## ○ ベンチマーク収益率

	令和5年6月末～ 令和5年9月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	▲2.97%
<国内株式> TOPIX (配当込み)	2.45%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース)	▲0.97%
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	▲0.27%

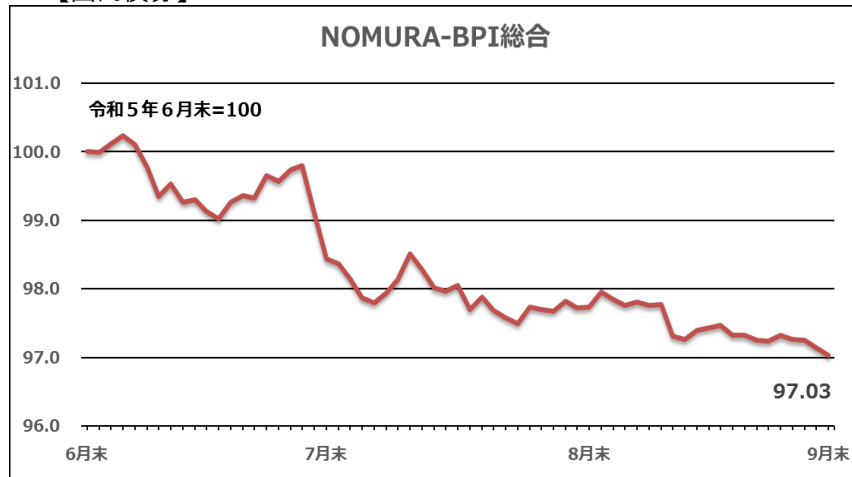
## ○ 参考指標

		令和5年6月末	令和5年7月末	令和5年8月末	令和5年9月末
国内債券	新発10年国債利回り (%)	0.401	0.612	0.651	0.765
国内株式	TOPIX (ポイント)	2,268.60	2,322.56	2,332.00	2,323.39
	日経平均株価 (円)	33,189.04	33,172.22	32,619.34	31,857.62
外国債券	米国10年国債利回り (%)	3.837	3.959	4.108	4.571
	ドイツ10年国債利回り (%)	2.392	2.492	2.466	2.839
外国株式	NYダウ (ドル)	34,407.60	35,559.53	34,721.91	33,507.50
	ドイツDAX (ポイント)	16,147.90	16,446.83	15,947.08	15,386.58
外国為替	ドル/円 (円)	144.31	142.29	145.54	149.37
	ユーロ/円 (円)	157.44	156.47	157.82	157.95

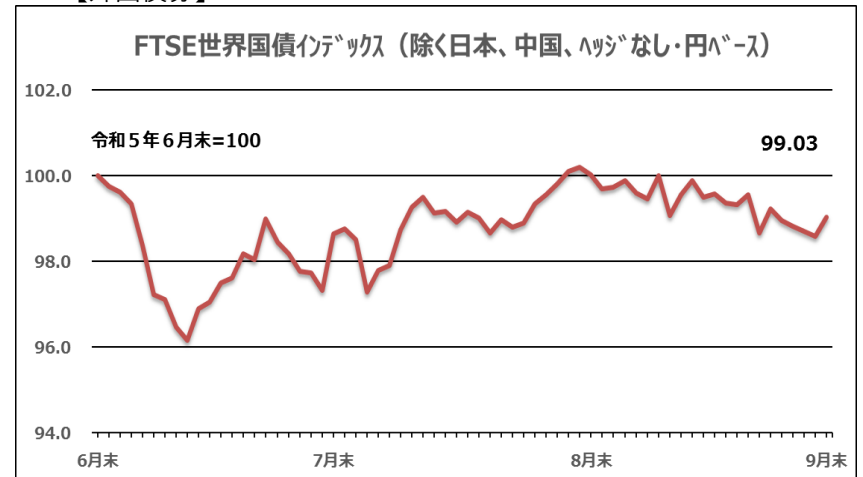
## 令和5年度 第2四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和5年度第2四半期) ※令和5年6月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

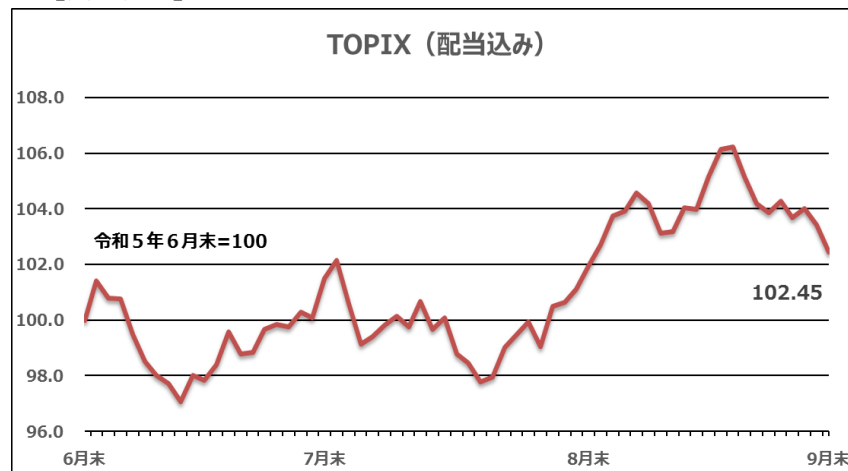
【国内債券】



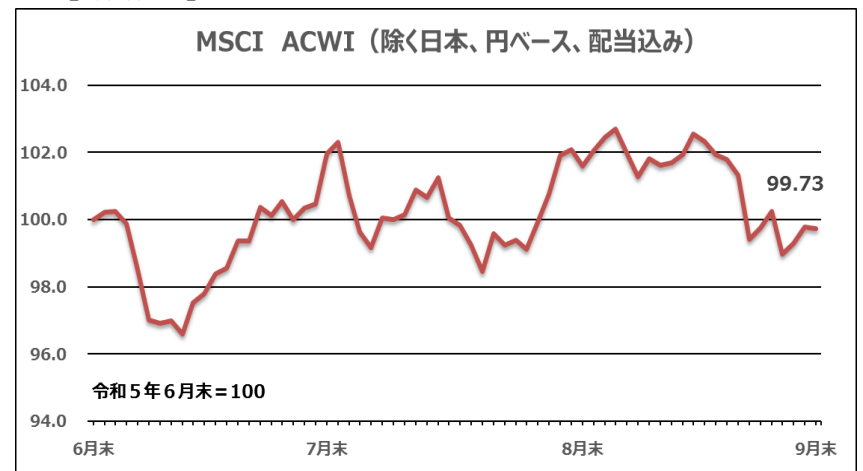
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

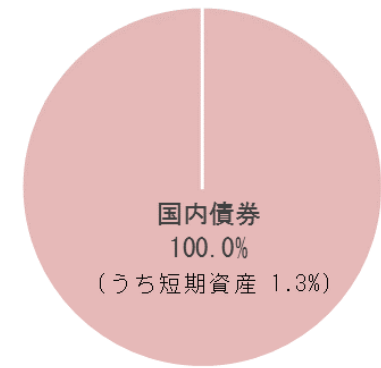


## 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和4年度	令和5年度				基本 ポートフォリオ
	年度末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0
うち短期資産	(2.0)	(1.9)	(1.3)	—	—	
合計	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0

第2四半期末 運用資産別の構成割合



- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。  
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。  
(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。  
(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。  
(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

## 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和5年度第2四半期の実現収益率は、0.11%となりました。  
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.10	0.11	—	—	0.21
国内債券	0.10	0.11	—	—	0.21
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.79	▲3.32	—	—	▲2.64

(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

(注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## (参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	0.10	0.37
国内債券	0.09	0.09	0.09	0.10	0.37
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲1.44	▲0.92	▲2.90	2.60	▲2.51



## 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.93	1.03	—	—	1.96
国内債券	0.93	1.03	—	—	1.96
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	7.01	▲30.92	—	—	▲23.91

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
(注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。  
(注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。  
(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## (参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.69	0.74	0.80	0.87	3.09
国内債券	0.69	0.74	0.80	0.87	3.09
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲11.34	▲7.44	▲24.20	21.94	▲21.05

## 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和5年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	938	912	▲25	972	914	▲58	—	—	—	—	—	—
うち短期資産	(18)	(18)	(0)	(13)	(13)	(0)	—	—	—	—	—	—
合計	938	912	▲25	972	914	▲58	—	—	—	—	—	—

(単位：億円)

	令和4年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	815	795	▲20	847	819	▲28	885	832	▲53	909	877	▲32
うち短期資産	(21)	(21)	(0)	(12)	(12)	(0)	(28)	(28)	(0)	(18)	(18)	(0)
合計	815	795	▲20	847	819	▲28	885	832	▲53	909	877	▲32

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和5年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

## 資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額  
(計算式)  
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率  
(計算式)  
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額  
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。  
(計算式)  
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率  
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。  
(計算式)  
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付  
債権の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。  
一般に B B B 格までが投資適格とされ、B B 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。